

# 文化について語ろう

## 文化庁京都移転に向けて

### 第100回 おむすびミーティング

会場：京町家 錦上ル

記念すべき100回を迎えた今年6月のおむすびミーティングは、みんなこのまちづくり推進事業「文化庁京都移転」私たちができること推進チームの会議に、門川市長が参加。チームメンバー、文化庁地域文化創生本部の方々と、京都が担ってべき文化発信などについて語り合いました。



第100回京都学生祭典実行委員会 実行委員長 喜馬 真也 氏  
 特定非営利活動法人 京都市メディア交流センター 理事 太田 千加 氏  
 特定非営利活動法人 京都青年会議所 センター長の 協賛者 松田 昌幸 氏  
 文化庁地域文化創生本部 事務局長 松坂 浩史 氏  
 門川大 作 市長  
 華道「新生活新聞」 代表 笹岡 隆博 氏  
 文化庁地域文化創生本部 事務局長 松坂 浩史 氏  
 特定非営利活動法人 子育ては教育でみるのりもり劇場 理事長 伊豆田 千加 氏  
 合気道無原塾 代表 ジャック・ハイエ 氏  
 特定非営利活動法人 子育ては教育でみるのりもり劇場 理事 栗田 由美子 氏  
 合気道無原塾 立命館大学教授 リム・ボン 氏  
 文化庁地域文化創生本部 上席学識 藤田 洋史 氏  
 京都府後援 京都府副知事 西川 裕興 氏  
 京都府後援 総合企画局長 藤原 正 氏  
 文化庁地域文化創生本部 事務局 藤原 正 氏  
 文化庁地域文化創生本部 事務局 松坂 浩史 氏  
 特定非営利活動法人 福井 久保川 芳弘 氏  
 特定非営利活動法人 京研 理事 高島 翼 氏  
 特定非営利活動法人 福井 久保川 芳弘 氏  
 京都府PTA連絡協議会 会長 久保川 芳弘 氏  
 京都料理研究会 会長 田村 圭吾 氏

## 新しい文化庁に向けて始動

一方、文化庁地域文化創生本部 事務局長である松坂さんは、文化庁の役割や未来像を語りました。  
 松坂 4月から京都に参りました文化庁地域文化創生本部は、7月から38名体制で新たな仕事を始めます。本部の主な業務は3つ。一つ目は、総括・政策研究グループ。二つ目は暮らしの文化アートグループ。これはハイカルチャーと呼ばれる歌舞伎やオペラを支援するだけでなく、お花やお茶といった生活の中にある文化の支援にも力を入れています。三つ目は広域文化観光。まちづくりグループ、文化財を広く観光に活用し、価値を理解してもらい、広域でもらおうという観光と文化の融合をめざします。本格移転については議論の途中ですが、来るのは決まったこと。これまでの文化庁がそのままでいいのか、来て何をやるかが大事です。地域に文化が根付く京都であるという思いしながら文化庁のDNAを変えていければと思います。文化は力強い一方で、変化に弱いものでもある。京都がたまを守られてきたものではなく、地域のみなさんが守ってきた努力の成果でしょう。そういう地元の文化を見つめなおす気持ちも、全国に展開できたらいいなと思います。」

## 京都の文化を広く世界へ



参加者で、最年少の学生代表 喜馬さん、京料理界の若手である田村さん、フランス人であり、合気道の師範でもあるジャック・ハイエさん、大学教授のリム・ボンさんからも、昨今の菊や意見が発表されました。喜馬 京都学生祭典は、学生が主体となり京都を盛り上げようというお祭りで、今年で15年目になります。今回、東アジア文化都市の2017京都において、日中韓3か国の事業に学生祭典も協力させていただきました。日中韓の食文化の出力をテーマに、6月16日の京都文化ワークにおける企画を練っています。この際、日本の出力については、チーム京都のメンバーである田村様に協力いただき、学生、留学生に対して出力の取り方や食文化の講習を行っていただきます。」

田村 すべての料理の基は出汁にあり生活における食は文化。他府県から京都に来ている学生さんたちとそのことを学んでいただきたい。当初は、日本、中国、韓国、3か国の出力を合わせるといった提案もありましたが、なかなか難しい。9月に向け、良い企画を生産できたらと考えていきます。」

## おむすびミーティングとは？

徹底した「現地・現場主義」を掲げる市長自ら、まちづくり活動の現場や市民と行政との協働の取組の場を訪問。市民の意見や要望に直接耳を傾けるとともに、未来の京都について語り合う「おむすびミーティング」。平成20年に第1回を開催し、今回で第100回を迎えました。



## 100回目は「テーマは文化」

文化庁の京都移転を契機として暮らしの文化を伝統文化・様々な芸術振興に取り組み方々、学生、PTA、経済団体、メディア、行政等が結成した「文化庁京都移転私たちができること推進チーム」。その3回会議の場に訪れた門川市長、100回目を迎えられたごへの感謝を述べるとともに、メンバーの活動報告に耳を傾けました。門川「今回が第100回となるおむすびミーティング。1月につき10人とお会いしたことで、約100人と直接お会いしてきました。みなさまの支援の賜物だと感謝しております。また、その100回目を「文化庁京都移転私たちができること推進チーム」のメンバー、文化庁地域文化創生本部の方々ともに行えるのは、すばらしいこと。」

ハイエ 2018年度、京都市とバリオ市の姉妹都市締結60周年を迎えたと聞いています。これを文化庁京都移転と絡め、チーム京都で参加できないなと思っています。具体的には、私や指揮員の合気道の演武や、京都市民とバリオ市民に向けたワークショップの実施を考えています。」  
 リム 門川市長とハイエさんが演武したら、すごくシュールですよ。笑。ここに集ったチーム京都は、いますぐ勢いがあります。ポンドウセンターのある広場あたりで、紙芝居あり、天才あり、生花あり、合気道あり、イベントを開催して、バリオ市民との交流を仕掛けるっていうのも面白いですね。」  
 笹岡 それぞれの文化が単独でフランスに溢るのではなく、ここに集った力が携わられ、さまざまな文化を同じ空間で体感してもらえ、なるほど想像するだけでも楽しそう。外務省、大検校とも連携して、日本文化をしっかりと発信したいですね。」

## 守るべき日本の文化とは

田村 京都には先祖から受け継いだものを残していく風習がある。それは全国的にとんと左遷されてきているもの、文化庁の方々に京都の町を体験してもらい、町民が市民レベルで守る文化や大切なという精神を感じていただきたいと思います。」  
 松坂 日本の文化をエンジニアチックな文化の「類型」として捉えるのか、いわゆるワールドワイドなものとして捉えるのか、ここからここまで守るべき生活文化なのか文化を定めるのは、非常にむずかしい。文化の対象を明確にするというのが今後の課題だと思っています。」



文化で日本を元気にし、世界の平和にも貢献していく。京都に文化庁が移転してよかったです。思っていたよりも、努力していきたくて考えました。」  
 杉山 4月25日に、左京東部いきいき市民生活運動センターで「いきいき春の文化祭」アートフリットとの出会い、というイベントを、天才アートKYOTOさんと一緒に開催しました。障害のある方の絵画展示、それら作品をどう活かせるか話し、ワークショップなどを行いました。」  
 高島 今年3月に約3週間、地下鉄京都市役所前駅の改札横スエースに特設ギャラリーを設け、障害者のアート作品を展示させていたいただきました。人通りの多い場所でも多くの方の目に触れる良い機会になったと思います。」

笹岡 二十四節気を意識した暮らしを広くPRするため、情緒豊か暮らしのPOPを、京都府住ホーム、住むなら京都にて記事掲載させていただきます。旧暦の考えをテーマにした記事を書きます。」  
 次世代に伝えたい行事を考えたいことを、だんま「5月に韓国で紙芝居をする機会をいただきました。少し不安もあったのですが、よく考えて京都では普段から様々な国の方に見ていただくいい機会、紙芝居は読み聞かせではなく、絵で伝える見せ語り、茶の間のようにお客さんと一緒に笑い合えるのが紙芝居。紙芝居で平和を訴えられると思っています。」



伊豆田 生活文化の一つ「季節の行事を大切に考えるという意味では、笹岡様から報告があった「二十四節気」の考え方を、私たちチーム京都として一旦落とし込めるか、何ができるか考えていこうということも大事なことだと思います。」

門川 これまでの文化を見直すのも大切ですが、大きな派手なことを仕掛けるのも必要。100人の小なお茶会をするとか、では花街でしか行っていない、節分に仮装する行事、お化けを復活させるもの面白いと思います。文化庁京都移転に向けて、皆さんの力でさらに文化を盛り上げていきましょう。」

## 「みんなごと」のまちづくり推進事業

「京都がもっとよくなる。もっと住みやすくなる」まちづくりの取組提案を広く市民の皆さまから募集し、京都市市政参加とまちづくりポータルサイト「みんなできつる京都」内の「まちづくり・お宝バンク」に登録・公開するとともに、提案の実現や市政への反映に向け、多様な市民力・地域力を活かした、きめ細かなサポートを行っています。

みんなでつくる京都 検索